

# NEWS LETTER

(財)集団力学研究所 No. 51 2008.03.15

ホームページ <http://www.group-dynamics.org/>

## 春の風

所長 吉田道雄

このところ研究所に春風が吹いてきたように思えます。東京にあるプロジェクトマネジメントに関わっておられる会社からメールが入りました。研究所のリーダーシップを測る物差しを導入したいというお話です。お聞きしますと、トレーニングやコンサルティングなどを展開されているとのことでした。バブルの崩壊以降でしょうか、わが国ではいわゆる終身雇用や年功序列の廃止、そしてリストラと成果主義の導入など、それまでになかった激しい変化が起きました。しかし、そうした試みのすべてが成功したとは言えないようです。そうした時期にややもすれば軽視されがちだったリーダーシップや対人関係スキルが見直されはじめたというわけですね。アメリカの資本主義がスタートしたのがいつのことかは知りませんが、人間の歴史全体から見ればまだ一瞬の時間しか経過していません。そして、そこで成功した発想やノウハウが今後も永遠に正しいものとして評価され続けるわけでもないでしょう。最終的に大切なのは、人と人との関係を大事にしながらか心豊かに生きることだと思います。その意味では、いつの間にかマイナスの文化のように批判されたりする日本的な組織づくりが間違っているとは思えないのです。もちろん、学ぶべきものは学ぶべきですが、それと同時に自分たちが築いてきた歴史や文化、こころの持ち方もしっかり大事にしていこうではありませんか。そんな思いでいましたら、今度は関西の方からもリーダーシップ尺度の使用についてお問い合わせがあったのです。それもほとんど同時に2社からのお

話なのです。そして、さすがに関西と言っているのでしょうか。あつという間に正式な導入をお決めいただき、すでに新年度から実働に入る段取りになっています。さらに名古屋地区の方からも、やはり同じようなご提案がございました。ほんの数ヶ月の間に4件ものお話があるのですから、やはり春風が吹き始めたと考えていいと思うのです。そんな中で、初代所長の三隅先生の著書が話題になりました。どれもが絶版になっていますが、それがインターネットのオークションで高値がついているというのです。さっそく調べてみましたら、講談社のブルーバックス「リーダーシップの科学」(1986年刊)が何と高いものでは4,000円を超えているのです。当時の定価は861円円ですから、5倍近い高騰ぶりです。この点からも、「春風論」は単なる幻想ではなそうなのです。こうした価格がつくのは、それを求める人がいるからに他なりません。やはりリーダーシップや対人関係があらためて注目されはじめたということでしょう。研究所としては大変ありがたい時代の変化だということができません。こうした状況のもとで、新たにリーダーシップの「自己評価分析システム」などの開発も進んでいます。また、「リーダーシップPM理論解説書」も完成しました。本年は研究所がスタートして41年目を迎えます。そうした心機一転の時期に春の暖かい風が吹き始めたことは、願ってもないことです。そうした追い風を受けて、研究所は焦らず怠けず前進して参ります。

# 新たに「国際部門」を設置

副所長 杉万俊夫

昨年度まで、集団力学研究所は、組織・教育・コミュニティの3部門で研究活動を展開してきましたが、平成20年度から4番目の部門として、新しく「国際部門」を設定することになりました。欧米・アジア・アフリカなどの研究者や実践者と積極的に協力関係を築きながら、世界と日本、世界と九州、世界と福岡の問題に取り組んでいく所存です。

集団力学研究所は、設立者である故・三隅二不二先生の時代から国際的学術交流を推進してきました。集団力学の産みの親であるクルト・レヴィンの直弟子ラルフ・リピットをはじめ、集団力学の代表的論文集「グループ・ダイナミクス」を編集したダーウィン・カートライトとアルヴィン・ザンダー、リーダーシップの研究で著名なエドウィン・フライシュマン、フレッド・フィードラー等々、三隅先生が招へいされた海外の研究者は枚挙にいとまがありません。また、毎年開催されている公開シンポジウムの第1回（1983年）は、集団力学研究所が日本を代表して参加した「働くことの意味に関する8カ国比較研究」の各国研究者による国際シンポジウムで

した。

そうした歴史の流れの中で、いま集団力学研究所が展開している主要な国際的活動をご紹介しましょう。まずアジアでは、中国社会科学院の羅紅光教授のグループと共同でコミュニティ活性化の問題に取り組むとともに、日本・中国・韓国・台湾の東アジアによる研究ネットワークも構築中です。また欧米に目を転じると、従来からの米国との交流に加えて、英国・ドイツ・フランス・オーストリアなどとの交流も進めています。とくに、福岡市の姉妹都市ボルドー（フランス）にあるボルドービジネススクールからは、この秋にタチアナ・シャミーヴァ教授を招へいし、講演会を開催する予定です。さらに、集団力学研究所の海外交流はアフリカにも及び、現在のところ日本との政治的・経済的パイプがほとんど切れているスーダンと学術交流を行っています。

こうした集団力学研究所の国際的活動については、このニュースレターにおいても順次紹介していく予定です。

## 研究所活動

第60回運営委員会が3月10日に開催されました。その際に審議・承認されました平成20年度事業計画について、その概略をお知らせします。

事業の展開に当たりましては、これまでと同様に皆様方の強力なご支援をお願い申し上げます。

### 【研究活動】

（財）集団力学研究所が有する研究資源をもって社会的ニーズに応えるため、従来の3つの研究部門を維持するとともに、時代の要請

も踏まえて新たに国際部門を設置し、実践的研究を積極的に推進する。

### 第一部門 組織分野

- ・組織における安全風土（安全を重視する組織風土・組織文化）の醸成、リスクマネジメントについて、「学習する組織」による理論的研究と現場研究を行う。
- ・組織行動の測定方法と対人関係トレーニング・プログラムの開発を行う。
- ・インターネット版汎用サーベイシステムの実用化

## 第二部門 教育分野

- ・教師の対人関係スキルアップを実現するトレーニングの開発を行う。

## 第三部門 コミュニティ・社会分野

- ・先駆的な地域活性化運動の空間的拡大と世代的拡大の可能性を、当事者との協同的实践を通じて研究する。

## 第四部門（新設） 国際分野

- ・中国（中国社会科学院）、フランス（ボルドー・ビジネススクール）、スーダン（ハルツーム大学他）との共同研究を推進する。
- ・今秋には、Tatiana Chameeva教授（ボルドー・ビジネススクール）を招へいして、講演会を行う。

## 【公開活動】

1. リーダーシップ・スクール  
年1回コース 平成20年9月、12月  
開催予定
2. 一般公開セミナー  
第26回公開シンポジウム 21年2月  
開催予定
3. 春秋セミナー 年1回 秋季開催予定
4. 通信教育「人間関係講座」常時開講

## 【広報活動】

1. 紀要 年1回刊行
2. ニュースレター 年2回程度刊行
3. 会員企業情報交換会 月1回開催

## 新所員紹介

永年にわたってご勤務いただいた藤田和来さんと島崎富士子さんがご異動になりました。藤田さんは西日本鉄道にお帰りになりました。島崎さんはご退職です。お二人の後任として若狭肇さんと小浦潔恵さんにご就任いただきました。若狭さんは藤田さんと同じ西日本鉄道からのご出向です。小浦さんはご自身が起業家としてスタートされた前途有望のキャリアウーマンです。お二人とも情報系に強く、若狭さんは職場調査システムの改善に、小浦さんは会計システムの効率化にと、これまで蓄積された力を十二分に発揮されています。

### 若狭 肇

昨年10月より研究所の事務全般を担当しております若狭 肇（わかさはじめ）と申します。旅行会社に勤めていたこともあり、海外研修や添乗業務でいろんな国へ出かけました。添乗業務では、「ヒマラヤトレッキングの旅」、「台湾の玉山（新高山）登山の旅」等の特殊なツアーもやりました。また、海外研修では、ポルポトの残党がまだ暗躍していたカンボジアのプノンペンやアンコールワットへの招待

旅行や、三泊五日のヨーロッパ招待旅行等々…。こうしたことから、多少とも海外旅行は詳しいと自負しております。

また、ここ数年、ホームページを作成する仕事をやっておりましたので、多少のプログラムコードは書くことができます。現在、簡単なVisual Basicや、マイクロソフトAccessのVBAコード等を使って研究所の書類作成システムなどを作成しております。ホームページもリニューアルされることもあり、これからはホームページ作成にも関わっていくことになると思います。

学生時代に心理学は勉強していましたが、「集団力学」という学問分野があることは全く知りませんでした。大変面白そうな分野なので、これから勉強していくつもりです。

よろしく願いいたします。

### 小浦潔恵

2007年7月より、集団力学研究所の事務的なお手伝いをさせていただいております小浦潔恵（こうら ゆきえ）です。九州工業大学で情報工学と生物化学を学び、昨年8月に起業した経営者でもあります。会社では、医療関係

者向け栄養情報教育（栄養・サプリメント指導の研修）・コンサルティングや、記事の執筆・監修をしています。

今回、縁あって集団力学研究所のお手伝いをさせていただくことになりましたが、研究所に来るまで、「集団力学」という学問の存在も知らずにおりました。そうした中で、この半年の間に、吉田先生のお話や著書を通して、

グループ・ダイナミクスという学問の面白さが見えてきました。

現在は、これから自分自身が会社のリーダーとして、頼られるコンサルタントとして成長していくための勉強をさせていただきながら、お手伝いさせていただいている状況です。

まだまだ行き届かない面もあるかと思いますが、よろしく願いいたします。

## 書籍案内 Meaning in Action: Constructions, Narratives, and Representations

Toshio Sugiman, Kenneth J. Gergen, Wolfgang Wagner and Yoko Yamada (編)

出版社：Springer (2008年)

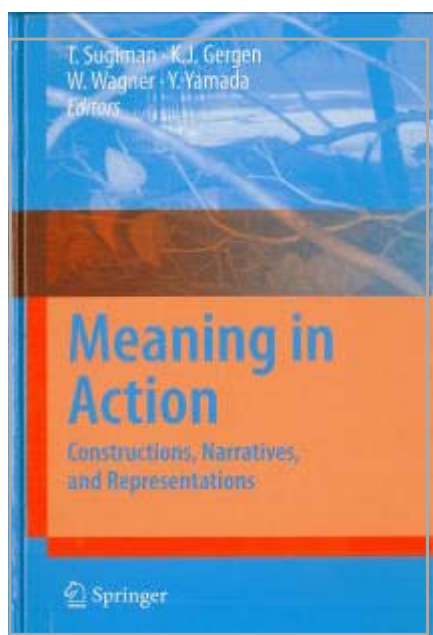
少々意識しますと、本書のタイトルは、「ポストモダンの集団力学---キー概念としての『意味』」。

本書は、「自然科学」に対するもう一つの科学である「人間科学」の立場に立つ最新研究を収録した論文集です。自然科学は、人が知ろうと知るまいと存在する客観的な事実を対象にします。夜空の星もそうですし、分子や原子もDNAも客観的な存在です。DNAは、ワトソンとクリックが発見する前から存在していました。しかし、人間や社会の現象は、そのような客観的な存在だけでは説明できません。

たとえば、組織の管理者のリーダーシップ。課長が何デシベルの声を発した、腕を何センチ動かした、そんな客観的あるいは物理的な記述では、課長のリーダーシップについては何も説明できません。そこでは、課長の行動が、例えば部下に対してどのような「意味 (meaning)」をもっているかが決定的に重要です。文字にすれば同じセリフでも、部下に対して、激励という意味をもつのか、あるいは、侮辱という意味をもつのかでは、天と地ほどの違いが出てきます。

意味は、何らかの集団の中で誕生し、集団の人々の思考や感情を形づくっていきます。本書の論文は、いずれも意味の形成、意味のインパクト、意味の時代的变化や文化的違いを取り上げています。21世紀の新しい集団力学 (グループ・ダイナミクス) にとって、「意味」は、超ド級に重要な概念です。

(杉万俊夫)



NEWS LETTER No.51 2008.03.15  
(財) 集団力学研究所  
福岡市中央区天神1-4-1  
西日本新聞会館14階  
Tel 092-713-1308 Fax 092-713-1309